

## 報告文献別一覧表(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

番号	感染症	出典	概要
1	A型肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/05) 34-35 (2005)	英国において2004年にA型肝炎が34件報告され2003年の報告数より23%減少していたことが述べられている。
2	A型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	英国において、2004年第4四半期は、HPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)にA型肝炎の検査報告が109例とされており、2003年の第4四半期よりも46%少ないことなど掲載。
3	A型肝炎	Communicable Public health, Vol.7 No.4, 289-293 (2004)	英国のSouth YorkshireにおけるA型肝炎症例の増加の大部分は静脈薬物を使用している若い男性であった。地域密着型の予防接種プログラム、地区の刑務所での4週間にわたる予防接種キャンペーンなどの結果、A型肝炎の増加は終息。
4	A型肝炎	Communicable Public health, Vol.7 No.4, 362-384 (2004)	A型肝炎、カンピロバクター感染症、コレラ、クリプトスポリジウム症、大腸菌感染症、ジアルジア症、サルモネラ感染症、チフス、パラチフスなどに関する英国のガイドラインが記載されている。
5	A型肝炎	<a href="http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new12-17.htm">http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new12-17.htm</a>	血液採取施設に対し、共通感染源によることが知られているまたは疑われているA型肝炎(HAV)感染のアウトブレイクに関連しているドナーおよび血液製品の管理についての情報が提供される。HAVへ最後に暴露された可能性のある日から120日間、献血は延期しなければならない
6	A型肝炎	<a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html">http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html</a>	2カ所のレストランの食品取扱者におけるA型肝炎陽性症例について通知を受け、A型肝炎12例が確認され、予防措置として保健当局はこのレストランの全ての従業員に予防接種を実施したことが記載されている。
7	A型肝炎	Kaliningrad国営ラジオ・テレビオンライン版, 2005年1月12日	2005年1月初旬以降、Kaliningrad地域Sovetsk市において(成人・小児合わせて)約30名が、A型肝炎に罹患した。大部分の感染者は、汚染された野菜やフルーツを摂取。
8	A型肝炎	MMWR, Vol. 54 No.18, 453-456(2005)	IgM型HAV抗体陽性で最近の肝炎の徴候または症状のない一部の人々については、最近の急性感染症後の持続検査陽性という理由が考えられる。3つの調査においてHAV抗体陽性の大部分の人々は感染症の特定のリスクのない高齢者であり、再検査を行った大部分はIgM型HAV抗体陰性。他者への感染伝播は報告されていない。よって肝炎特有の症状のない高齢者におけるIgM型HAV抗体陽性は、偽陽性結果または数ヶ月から数年前に発症したHAV感染症の結果である可能性が高いことが示唆
9	A型肝炎	Pro Med2004/12/27	ムルマンスク地域のApatit市民130名がA型現時点で肝炎と診断されている。患者数は日に日に増加し、疫学者らは、上水道が感染源であると示唆している。
10	A型肝炎	ProMed, 2005/3/28	Hyderabad (Andhra Pradesh州)でのA型およびE型肝炎流行。2005年3月第4週に渡り、患者100名以上が旧市街の狭い地区1区のみから報告された。患者はA型およびE型肝炎と診断されている。政府は、新規患者数は減少し始めたとしている。
11	A型肝炎	ProMed, 2005年6月18日	ロシア南西部Tver地域におけるウイルス性A型肝炎患者数は小児177名を含む642名に増加。A型肝炎患者と接触のあった小児2000名を含む3000名以上がA型肝炎ワクチン予防接種を受けた。
12	A型肝炎	ProMed, 2005年6月22日	Tver 地域南西地区でのA型肝炎患者数が、小児182名を含む662名に達した。モスクワ市の衛生疫学局は、2005年5月までの期間に、小児164名を含む1130名が肝炎に罹患したと発表している。
13	A型肝炎	ProMed, 2005年6月9日	2004年8月～9月に、Hurghadaのリゾート地のあるホテルに滞在した旅行者の間で大規模なA型肝炎の流行があった。オーストリア、スウェーデン、デンマーク等から患者が報告された。感染源として、朝食のビュッフェで出されたグレープフルーツジュースが疑われた事など。

番号	感染症	出典	概要
14	A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
15	B型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 4 (2005) 2005年1月27日	2004年第3四半期は、HPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)に急性B型肝炎感染計94例が報告されたこと、2004年7月～9月の年令別および性別の症例数を記載。
16	B型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	2004年第4四半期は、急性B型肝炎感染の検査報告計40件が報告されたこと、2004年10月～12月の年令別および性別、暴露カテゴリー別の症例数を記載。
17	B型肝炎	Clin Lab 2004;50:49-51	HBs抗原(HBsAg)の変異株が、特定の市販されているイムノアッセイ・キットを用いても検出されない可能性がある。
18	B型肝炎	Eurosurveillance ;10( 11)2005 年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
19	B型肝炎	Hepatology 2004;40(5):1072-7	カナダの都市部で血液透析を受けている成人患者のoccultHBV(B型肝炎表面抗原陰性)、HBV-DNA陽性)保有率は3.8%(241名中9名)であり、ほとんどがウイルス量は低く、sG145R変異体の保有率が高かった。
20	B型肝炎	<a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb1105_e.html">http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb1105_e.html</a>	血糖管理に関連したB型肝炎ウイルス感染のアウトブレイクによりCDCおよびFDAは1990年以降、指先穿刺用具の個人使用の制限を推奨してきた。最近、長期療養型施設居住者における血糖管理用医療用具の共用などによりHBV感染のアウトブレイク3件が発生した。
21	B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
22	B型肝炎	Public Health Agency of Canada, 2005/3/22	ベルギーのFlandersにある老人養護施設2カ所において、糖尿病患者におけるfingerstick(血液採取用具)の複数回使用に関連した、急性B型肝炎感染症例4例が最近発見されたこと、米国では、血糖値管理中の不十分な感染管理方法に関連した長期療養型施設の高令居住者におけるB型肝炎のアウトブレイク3件が最近報告されていること、英国の長期療養型施設における最近のB型肝炎のアウトブレイクは現在調査中であるが、伝播様式はいまだに不明であることなどが記載されている。
23	B型肝炎 C型肝炎	Communicable Public health. Vol.7 No.4, 301- 305(2004)	違法薬物使用歴、過去の静脈注射使用歴とB型肝炎、C型肝炎、HIV感染対策。
24	B型肝炎 C型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(2):216-20	イタリアの急性HBV感染の約15%、急性HVC感染の約11.5%はビューティートリートメント(理容室の髭剃りや刺青等)による感染である。
25	C型肝炎	CDR Weekly, Vol. 15 No.5 (2005)	CFIIにより調整された、第2期C型肝炎の再調査が完了した。2003年の最初の調査において、C型肝炎感染医療従事者(HCW)によりリスクの高い暴露の手技(EPP)が実施された500名の女性が調査され、調査に含まれなかった患者1例がC型肝炎と判明。
26	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No.4 (2005) 2005年1月27日	2004年第3四半期はHPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)にC型肝炎感染計1921例が報告されたこと、2004年4月～6月の年令別および性別の症例数を記載。
27	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	2004年第4四半期は、C型肝炎感染計1288例が報告されたこと、2004年10月～12月の年令別および性別の症例数を記載。
28	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	Health Protection Agency Centre for infectionによって行われるC型肝炎複合遡及調査活動において、2004年ロンドン病院の産婦人科で治療を受けた患者にC型肝炎ウイルス感染が確認され、この患者と患者を看護した医療従事者に遺伝子型が同一のウイルスが確認された。

番号	感染症	出典	概要
29	C型肝炎	Evening Times、2005年4月19日	ある産婦人科の外科医が最近C型肝炎であることが判明した。これに伴い、過去23年間にこの医師の治療を受けた患者にリスクがあることが通知され、女性1例が既にC型肝炎検査陽性であったことなどについて記載されている。
30	C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝炎患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである。
31	C型肝炎	<a href="http://www.phac-aspcgc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2505_e.html">http://www.phac-aspcgc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2505_e.html</a>	本報告ではC型肝炎感染の背景の提供、針およびシリンジに対する消毒としての漂白の使用に関する概要を記載。B型肝炎およびHIV感染予防における漂白の有効性の比較などについて記載されている。報告書はウェブサイトで見ることができる。
32	C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある。
33	C型肝炎	Pro Med.2005/1/5	当局は、C型肝炎で死亡した患者の感染源を、負荷試験や他の通常の診断検査時に血液中に注射される放射線同位元素テクネチウム99m(99mTc)の注射が感染源であったと追跡した。
34	C型肝炎	英国保健省 Publications and statistics, 2004/0426、2004年12月8日	C型肝炎についての新たな公衆衛生キャンペーンが今後2年間にわたり、C型肝炎の知識を増加し、ウイルスの伝播様式、感染症回避するための啓蒙が行なわれる予定。英国では約20万人が慢性感染だが、多くは感染に気がついていないこと、症例の約55%が治療に対して反応するため、リスクが高い患者は検査を受けることが重要であることなどが記載されている。
35	C型肝炎	臨床血液 2004; 45(8): 280 PS-1-247.	HCV-RNA検査陰性であった血液製剤の輸血によってHCV感染が疑われる症例が報告された。
36	E型肝炎	IDWR感染症週報2004年第47週	E型肝炎の感染経路、症状、規制、発生動向、直近の累積報告数、感染源などについて。
37	E型肝炎	Pro Med 2005年1月7日	今年ムンバイ市内では、黄疸性E型肝炎ウイルス感染が、市の南部で猛威を振るっていると医療関係者が指摘している。
38	E型肝炎	ProMED 2004 Dec;74(4): 563-572	1979年にHEVに感染した1名は、ウイルス血症になる21日前に2Uの血液を輸血していたことを確認した。
39	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
40	E型肝炎	食品衛生研究2005;55(2):49-51	冷凍シカ肉からE型肝炎ウイルスが検出された例。
41	HIV	"HIV/AIDS Epi Updates 2005" May 2005 ed by Public Health Agency of Canada	Public Health Agency of Canadaの感染症対策予防センターのサーベイランスおよびリスク評価部門が2005年5月に『HIV/AIDSの最新疫学情報(HIV/AIDS Epi Updates)』を発行した。毎年1回編集されている、カナダにおけるHIV感染症の30%は診断されていない可能性があることなどについて記載。
42	HIV	AABB Weekly Report 2004; 10(35)	インド保健省によると、現在のインドにおけるAIDS症例の3~4%が輸血を介して伝播された。
43	HIV	Canada Public Health Agency, Infectious Diseases News Brief.2005年2月19日	急速進行性のHIVの高耐性株が一度も抗ウイルス薬治療の経験のないニューヨーク市民から初めて診断された。3クラス抗レトロウイルス薬耐性HIV(3-DCR HIV)株は、3つのクラスの抗ウイルス剤に対して耐性を示し、HIV感染からAIDS発症までの期間が非常に短縮されているように見える。

番号	感染症	出典	概要
44	HIV	CCDR, Vol. 31No.5, 53-55(2005)	性交渉の相手および薬物を共有している相手にHIV/AIDSの状態を伝えない人々は疾病を伝播する可能性がある。輸血・静脈薬物使用・母子感染・針刺し事故・性的暴露などの個々の行動に関連したHIV伝播のリスク、HIV/AIDSの状態を伝えない人々の問題に取り組むための戦略の評価など概要を記載。
45	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 10(2005)	Health Protection Agency's Centre for Infections (CFI)が、職業的暴露後に医療従事者で発生したHIVセロコンバージョン症例を照合している。看護師、臨床検査室職員、医学生を含む医師(外科医は含まない)などが対象。
46	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 12(2005)	2005年3月、後期HIV診断と早期死亡率の推定数および割合の国内の傾向に関する報告が発表された。CD4細胞数200/mm <sup>3</sup> 以下と定義される「後期HIV」と診断されたMSMは、HIV診断の1年以内に死亡する可能性が10倍以上であることが示されている。
47	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 8(2005)	2004年に新規HIV感染診断5016件が報告され、1982年のサーベイランス開始後英国で報告されているHIV診断総数は68556件になった。現在までに21010例がAIDSと診断され、そのうち16131例が死亡、2004年の新規診断数は7000例近くと高水準、感染経路(2004年、57%(2860件)が男女間の性交渉であることなど)、診断症例の地域および診断年の表などが記載されている。
48	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	英国静注薬物使用者のHIV有病率の動向。ロンドンにおいてHIV伝播の増加の可能性を示唆する徴候が提示された。HIV有病率は一次低減し、安定した状態であったが、近年では有病率が増加している。
49	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
50	HIV	HIV and AIDS in african communities.英国保健省 2005	英国におけるHIVおよびAIDSはアフリカ人コミュニティに偏っており、これは英国における流行パターンにも反映されていることなどについて記載されている。
51	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/15) 89-90 (2005)	新生児からの乾燥炉紙血(Dried Blood Spot)でのHIV検査を通して、スコットランドの女性53828名のHIV感染症の状態が検査されている。1999年~2004年のスコットランドの出産した女性でのHIV感染症罹患率のグラフ、HIV感染症の傾向についての表なども掲載。
52	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/3),18-20 (2005)	2004年はHPAにHIVの診断365件が報告され、過去最高。男性と性交渉を持つ男性(MSM)および異性愛者における診断は2003年より多く、MSMにおける診断数の増加の主な理由はHIV検査受診者の大幅な増加、異性愛者の男性および女性におけるHIV診断数の増加はHIVの感染率が高いサハラ以南(ジンバブエなど)からスコットランドにきた人々の増加によることなどを記載。
53	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/15) 92 (2005)	2005年第1四半期はHIVの診断83件がHPSへ報告され、報告の特徴(率およびリスクカテゴリーの分布)は2004年に観察されたものと一致していること、2004年にHIV感染女性13例が出産しており、これらの症例のHIVの状態は妊娠前は知られていなかったこと、観察結果から全体的に国家の新生児HIV検査は全国を通して実施は成功していることを示していることなどについて記載されている。
54	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/26) 147-148 (2005)	2003年4月~2004年12月にGlasgowで197検体、Edinburghで401検体がHIV薬剤耐性検査を受けた。78%が遺伝子型耐性(ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NRTI)耐性、非ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NNRTI)耐性、プロテアーゼ阻害剤(PI)耐性を示し、22%が耐性を示さなかった。
55	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 11-18 (2005)	スコットランドにおける累計はHIV報告数4219例、AIDS症例数1238例、死亡総数1402例、AIDSによる死亡数854例;2004年の第4四半期に、91名のHIV抗体検査陽性結果が報告された。
56	HIV	<a href="http://allafrica.com/stories/200506201190.html">http://allafrica.com/stories/200506201190.html</a>	この国内の取り組みは新規HIV感染症症例数を低減させる国立血液輸血サービスの顧問病理学者の報告によると、プログラムを開始後12カ月に献血血液の廃棄は15.9%から9.9%に低下した。

番号	感染症	出典	概要
57	HIV	<a href="http://www.aegis.com/news/ads/2005/AD050524.html">http://www.aegis.com/news/ads/2005/AD050524.html</a>	中国東部の当局は1990年以降に売血をした人々に対するHIV検査の実施を開始。中国保健省は中国におけるHIV陽性患者は84万人、AIDS患者は8万人と報告している。WHOは感染者数を150万～200万人と推定。
58	HIV	<a href="http://www.blackaidsday.org/NBHAAD_info_home.htm">http://www.blackaidsday.org/NBHAAD_info_home.htm</a>	Fact Sheetには米国では現在推定80万～90万人のHIV感染症症例があり、毎年約4万人がHIVに新たに感染していること、米国において報告されているAIDS症例数(2000年12月現在774467例)、AIDSによる死亡症例数(2000年12月までに448060例)、AIDS症例および死亡の減少の減速などについて記載されている。
59	HIV	<a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/publicatepc/aids-sida/haic-vsac1204/index.html">http://www.phac-aspc.gc.ca/publicatepc/aids-sida/haic-vsac1204/index.html</a>	カナダにおけるHIV・AIDS、1984年～2004年のカナダの周産期HIVサーベイランスプログラムの報告、カナダにおけるHIV/AIDSによる死亡などについて記載。カナダにおけるAIDS診断の成人女性が占める割合が増加していることなどが記載されている。
60	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
61	HIV	MHRA/CRD Weekly 10, March 2005	職業的曝露後に医療従事者で発生した「実証された」および「可能性のある」HIVセロコンバージョン症例に関する報告。
62	HIV	MMWR, Vol.54No.24, 597-601 (2005)	男性と性的関係を持つ男性(MSM)におけるHIV感染、以前に受けたHIV検査などについて評価するため、CDCがアメリカの5都市のデータの分析を行った。調査されたMSMのうち25%がHIVに感染し、それらの48%は感染に気が付いていなかったことが示されていた。
63	HIV	ProMed, 2005年2月14日	先日ニューヨーク市在住の男性から検出された稀で病原性が高いヒト免疫不全(HIV)ウイルスの感染源を確認するため、AIDS患者2人から分離されたHIV(AIDS)ウイルスが解析されている。
64	HIV	ProMed, 2005年2月7日	ニューヨーク市保健精神衛生局(DOHMH)によれば、急速進行性のHIV(ヒト免疫不全ウイルス)の高病原性株、3-DCR HIVが、一度も抗ウイルス薬治療を受けたことのないニューヨーク市民で初めて確認された。
65	HIV	Public Health Agency of Canada, 2005/3/22	アボリジニーにおけるHIV/AIDSの流行について非アボリジニーと比較されている。概括として、アボリジニーにおけるHIVの流行は下降の徴候を示していないこと、アボリジニーにおける最も一般的なHIV伝播の様式は静注薬物使用であることなどが示唆され、このことからアボリジニーにおけるHIVの流行は異なる特徴がありカナダのHIV流行を複雑にしている。
66	HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。
67	HIV	Surveillance Report to March 31, 2004	カナダ政府が『カナダにおけるHIV株および第一選択薬に対する耐性』を発行。HIV-1サブタイプの分布、第一選択薬に対する耐性(1996年～2004年3月31日)について記載。ウェブサイトで閲覧が可能。
68	HIV	The Lancet 2005;365(9464):1031-38	2004年12月にヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)感染と診断された男性の症状は20ヶ月以内(おそらくは4ヶ月以内にAIDSに進行した)。
69	HIV	The New England Journal of Medicine 2004;351(8):760-68	血清学的検査陰性供血者の「米国供血者に対するミニプール核酸増幅検査の結果、年間約5件のHIV-1、また、約56件のHCVを検出した。」
70	HIV	The Telegraph, 2005年4月14日	インドのムザファルナガルの市民が、HIV陽性の9才男児の死亡後、少年が民間の血液バンクから提供された汚染血液からウイルスに感染した疑いから市全体にわたる抗議を行った。
71	HIV	The Weekly Epidemiological Record 2004;79(50)	WHOおよびUNAIDは2004年末でのHIV/AIDS感染者の世界的状況について述べている。HIV/AIDS流行により、2004年に約500万(430万～640万)人がHIVに感染し、約300万(280万～350万)人が死亡している。

番号	感染症	出典	概要
72	HIV	USA Today, オンライン版、2005年6月15日	米国南部における女性AIDS症例数は貧困、無力感、疾病に対する認識不足および医療の受けにくさが原因で増加している。特にヒスパニック系女性で4倍、黒人女性で18倍増加し、71%が異性間性交渉を介して感染しているとCDCは言及している。
73	HIV	WHO Weekly epidemiological record, Vol.79, No. 50, 441-449 -2004	WHOおよびUNAIDSは2004年末のHIV/AIDS感染者(PLWHA)は3940万人(3590万~4430万人)となると推定している。
74	HIV	WHOニュース.2005年3月24日	WHOが2005年3月24日に発表したGlobal tuberculosis control2005年報告によると、1990年以降世界における結核罹患率は20%以上減少し、発生率は現在世界6地域中5地域において下降または安定している。明らかな例外はアフリカで、アフリカ大陸全域で年間3-4%上昇していることなどについて記載されている。
75	HIV	感染症週報:7(3)13-14 (2005)	日本のAIDS患者・HIV感染者の状況(平成16年9月27日~平成17年1月2日):平成16年第4四半期報告によれば、法定報告に基づく新規報告数は、HIV感染者が190件、エイズ患者が93件であった。過去最高であった前回報告からは数字の上では減少している。
76	HIV感染、肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3) 21-22, (2005)	Scottish National Blood Transfusion Service (SNBTS)による献血血液の検査において278054の血液中計39で血液媒介感染症の陽性マーカーが確認されたこと、39件の感染血液はHCVが23件、HBVが8件、HIVが3件、過去の梅毒が5件であった。
77	HIV感染、肝炎	HPS Weekly Report, Vol. 39, (2005/3), 22-23 (2005)	HIV:2002年末時点で世界で4200万例以上がHIVキャリアー。同年にサハラ以南のアフリカにおいて約2500万例が死亡。スコットランドのHIV感染症の大部分はサハラ以南出身のアフリカ諸国の男性と性交渉を持つ男性および異性愛の男女。肝炎:世界で慢性B型肝炎のキャリアーが350万例以上、英国は流行の低い地域と考えられており、慢性B型肝炎の罹患率は0.1%以下、スコットランドでのC型肝炎は主に静注薬物使用者における伝播。
78	HIV感染、肝炎	MMWR Weekly, Vol.54 No.04, 89-94 (2005)	2003年、米国におけるHIV/AIDS症例の28%が女性で、その約69%が非ヒスパニック系黒人女性であったこと、ノースカロライナ州では新たに報告されたHIV感染の黒人女性における割合が増加し、同州の黒人女性のHIV感染率が白人女性と比較して14倍高かったことなどについての調査結果などについて記載。
79	HIV感染、肝炎	The Tribune, オンライン版 2005年3月23日	インドの会計検査院から多くのユニットの血液がHIVおよび肝炎に対する必須のスクリーニングなしに国立病院で患者に輸血されたと最近発表された。
80	HTLV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 8(2005)	2004年に英イングランドおよびウェールズにおいてHTLV感染症新規診断が83例あったこと、HTLV-I型が94%陽性と最多。感染経路についても記載されている。
81	HTLV	Commun Dis Public Health 2004;7(3):207-11	輸血を介して伝播されたHTLV確定例の2症例が報告された。
82	HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV)-IとHTLV-IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。
83	HTLV	Proceedings of National Academy Science 2005;102(22):7994-9	今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。
84	HTLV	Reuters Foundation AlertNet, Newsdesk 26 Feb 2005	これまで人間では感染が認められていなかったレトロウイルス(HTLV-3及びHTLV-4)がカメルーンで日常的にサルを狩猟している人々から発見された。
85	ウイルス感染	J of clinical microbiology 2005;43(2):657-661	急性胃腸炎を引き起こすノロウイルスにおいてブタと人との間で遺伝的トランスミッションを起こす人畜共通感染症として示唆している
86	ウイルス感染	ProMED: 20050520-0020 2005/5/18	レユニオン島(モーリシャス島から230km)では、チクングンヤウイルス病の最初の患者は先週初めに報告され、その後患者数が急激に増えている。
87	ウイルス感染	ProMed20040917-0010(オーストラリア農業省)	西チモールでブタおよびニワトリが原因不明の大量死
88	ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡

番号	感染症	出典	概要
89	ウイルス感染	ProMed20050216-0410 (India News 2月24日)	Taj市において100頭以上のブタが大量死したが、原因は不明である。
90	ウイルス感染	ProMed20050228-0030(The Jakarta Post 2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
91	ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
92	ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
93	ウイルス感染	Transfusion 2004;44:1396	健康人の血液にもボルナ病ウイルスの存在が確認され、輸血を介して感染する可能性が考えられる。
94	ウイルス感染	Transfusion 2005;45(4):500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告。
95	ウイルス感染	1.ProMed20041127-0070(The Daily Star) 2.The Daily Star November 23, 2000	バングラデシュで原因不明の疾患により、ウシが約2000頭死亡したという報告である。
96	ウイルス感染	1.ProMed20050130-0010(New Straits Times 1月29日)	Malacca州の農場で発生した120頭以上のブタ大量死原因はニパウイルスや豚コレラではなかった。
97	ウイルス性脳炎	ProMED情報(詳細) 2005.6.1	CDCによる2005年5月にマサチューセッツ州、ロードアイランド州で発生した臓器移植に伴うリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染死亡患者事例に関する調査等の情報。
98	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2005;54(05);123-5	日本脳炎ワクチン未接種のワシントン居住者がタイ北部に旅行し、帰国後日本脳炎を発症した事例。
99	ウイルス性脳炎	ProMed20050414-0070(Fons Van Gompel(MD))	2004年7月に2ヶ月中国の上海で過ごし、後に日本脳炎を発病した10才のベルギー人少女患者について。たった2週間中国の近代都市滞在で日本脳炎に感染したとは特記すべき症例である。
100	ウイルス性脳炎	ProMed20050427-0010(Sarah Borwein)	3年前、北京に住んでいた海外からの移住者が、日本脳炎と確認された(北京には発病前1ヵ月たらず在住したに過ぎなかった)。神経学的後遺症を合併した。
101	ウエストナイルウイルス	American Journal of Transplantation 2004;4:830-3	54歳の腎移植患者のウエストナイルウイルス感染の事例。
102	ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされ、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
103	ウエストナイルウイルス	CDC 2005年1月11日	アメリカでは西ナイルウイルス感染が増加の傾向にある。アメリカ以外でも感染報告が散見される。
104	ウエストナイルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294-1296,2005	入院7日前に発熱、頭痛、精神的変調をきたした男性が、アリゾナ州の病院に2004年7月7日に入院した。この患者のCSF(脳脊髄液)の所見はウイルス性脳炎と一致していた。採取されたCSFサンプルはELISAによるWNV IgM抗体陽性で、血清サンプルについてはPRNT法によりWNVのIgMが7月7日から14日に4倍上昇し、WNV感染が確認された。
105	ウエストナイルウイルス	Department of Health./Press releases Mar. 1, 2005	米国において輸血および臓器移植による西ナイルウイルス症例数例が報告されている。

番号	感染症	出典	概要
106	ウエストナイルウイルス	ProMed20041008-2759(フランス食品安全局)	2004年8月28日(疫学第35週)に、ウマ2頭のWNV感染疑い(臨床診断)例が、フランス南東部Camargue地域で獣医師により確認された。9月30日までにウマの死亡例4例と疑い症例37頭が報告された。
107	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMed20050501-0030(OIE)	米国における水疱性口内炎について流行終息宣言地域における再発生。2005年4月28日現在。
108	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報(詳細) 2005.5.11 (国際獣疫事務局(OIE) Disease Information Vol.18-No.17 2005.4.29)	緊急報告の理由:流行終息宣言地域におけるOIEリスト掲載疾患の再発生 起因病原体の正確な同定-水疱性口内炎ウイルスNew Jersey型 感染の初回確定日-2005年4月27日 感染の発生日-2005年4月19日 詳細-場所:ニューメキシコ州Grant郡Mule Creekの農場。ウマ:疑い6例、発症2例。ウシ:疑い110例。感染群の概要-ウマ6頭は敷地内で飼育されており、ウシの放牧のための労働を行っていた。
109	ウツウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):298-301	ウツウイルスがヒト由来の細胞を含め、多種の動物に由来する多様な組織型の培養細胞に感染しうることが示された。
110	ウマ脳炎	The Boston channel com 17 Sep 2004	アメリカにおいて蚊を媒介とする東部ウマ脳炎がヒトで発生した3例目の事例。
111	エボラ出血	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):283-90	2001~2003年にガボン共和国及びコンゴ共和国でヒトで流行したエボラ出血熱について、野生動物のエボラウイルスによる死体を採取し、検査した結果、類人猿のみでなく、小型レイヨウ(牛科)であるduikerからもエボラウイルスが検出された。
112	エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。
113	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっている。
114	BSE	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
115	BSE	ProMED: 20050126-0070: 2005/01/19 OIE Disease Information Vol.18-No.3	2005年、カナダのアルバータ州Red Deer地区の牧場で生産・飼育されたウシ1頭にBSEが確認された。罹患ウシは雌のCharolais種で、1998年3月生まれの81カ月齢であった。当局は関連性を追跡中である。
116	BSE	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
117	BSE	ProMed-mailArchive Number:20050128.0312[3]Published Date:28-JAN-2005	フランスにおいて2002年来BSE感染の疑われていたヤギは、その後英国とフランスとの共同研究により確認試験を実施中であった。マウスを用いたbioassay試験の結果、当該疾病は世界初のヤギへのBSE感染例であることが確認された(2005年1月28日発表)
118	BSE	ProMED情報(詳細) 2005.7.4 (USDA記者発表 2005.6.29)	米国農務省(USDA)による声明。2005年6月第4週、BSE検査陽性と同定された動物が飼育されていた個体集団(群)がDNA検査により同定された。飼い主から当局が入手した情報に基づいて、このウシはテキサス州内で飼育されている集団で生育し、年齢が約12才前後であったことが確認された。
119	BSE	USDA News Release. No.0232.Jun 24, 2005 USDA ANNOUNCES BSE TESTRESULTS AND NEW BSE CONFIRMATORY TESTING PROTOCOL	米国テキサス州生まれで、2004年11月にアメリカ農務省(USDA)がBSE擬陽性と判定したウシの試料を英国Weybridge研究所が検査の結果、3頭のうち1頭をBSEと判定。以後、USDAはELISA試験が陽性的の場合、二次検査としてWestern blotあるいは免疫組織化学的検査を実施し、少なくとも一方が陽性的の場合はBSEと判定するように検査法を改正。
120	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release, 2005年1月11日	カナダ食品検査局(CFIA)は2005年1月11日、カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7才未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表。
121	BSE	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/11)68(2005)	1992年~2005年2月4日までの、英国およびスコットランドにおけるBSE確定症例数(2005年(2005年2月4日まで)は英国において3例、スコットランドにおいて1例)。



番号	感染症	出典	概要
122	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 25 2005年6月24日	オーストリアにおける2例目のBSE感染ウシの概要。アウトブレイクの原因／感染源は、不明もしくは結論に到達していない。
123	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月14日	米国において、BSE感染したウシは、米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
124	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 5 2005年2月4日	フランスでの、BSEの原因である病原性プリオンタンパク質が同定された。成体のヤギ300頭を含む搾乳用ヤギ群で発見されたヤギのBSE症例1例が発見された。症例は2005年1月28日にOIEのBSEリファレンス研究所などにより確定された。原因は、不明もしくは結論に到達していない。
125	BSE	Pro Med 2005年2月3日	フランスのヤギがBSEに罹患したことが確定された。EU加盟国は、EUで飼育されるヤギに対してBSE検査を強化するとして欧州委員会による提案に同意した。
126	BSE	ProMed、2005年2月8日	英国政府から1990年にスクレーピーに感染したと診断されたヤギが、実はBSE(狂牛病)であった可能性が出ていると発表された。
127	BSE	ProMed、2005年4月28日	世界中のBSE症例数更新:2004年にBSE発生率が最も高かった2国は、ポルトガル(93.870)と英国(67.796)で従来と同じ。スロバキア、ポーランド、チェコ共和国および日本が前年より高い発生率。オランダでのBSE対策の経緯の情報。
128	BSE	ProMed、2005年6月11日	アメリカで2例目のBSE陽性ウシが見つかった。検体は、2004年11月にテキサスで衰弱し死亡したウシから採取され、USDA検査長の要請で再検査された。2004年秋の検査でこのウシはBSEではないと思われていたが、より正確な検査を行った結果「弱陽性」となった。2つの検査結果が異なるため、検体は来週、英国のWeybridgeにある世界最高水準のBSE検査機関に送る予定である。
129	BSE	ProMed、2005年6月11日	米国産のウシでBSE検査が陽性となり、さらなる追加検査が結果を確定するためにイギリスの検査室で実施される。以下、農務省USDAにより一旦BSE検査をクリアしたウシに改めてBSEの疑いがかけられたことに関して、公衆衛生上の新たなリスクにはあたらないとする記載。
130	BSE	ProMed、2005年6月13日	情報源:Alertnet, 6月13日。米国農務省(USDA)は米国のBSE疑いウシは1997年の飼料禁輸措置以前に生まれたと述べた。
131	BSE	ProMed、2005年6月14日	今回の米国産BSE可能性患畜となったウシは1997年8月以前に生まれており、この時期は米国政府がBSE感染拡大を予防するための新規飼料輸入規制を実施した時期であるとUSDAは述べた。
132	BSE	ProMed、2005年6月21日	オーストリアのアルペン地方で再び狂牛病のウシが発見された。オーストリアで2例目となる。感染経路は不明なことなど
133	BSE	ProMed、2005年6月24日	6月17日時点でカナダ食品検査局(CFIA)は2005年度連邦および州検査室併せて32363頭のウシ検体検査を完了しており、2003年度の5500頭、2004年度の23550頭から大幅に増加している。
134	BSE	ProMed、2005年6月24日	従来狂牛病(牛海綿状脳症:BSE)ではないとされていた米国産ウシが検査でBSEであることが診断確定した。このウシは米国における2頭目のBSE患畜になる。イギリスのWeybridgeにある国際BSE委託検査室においてBSE診断が確定した。
135	BSE	ProMed、2005年6月26日	2005年6月24日、米国農務省(USDA)がイギリスWeybridge(国際BSE委託検査室である)獣医学検査室(VLA)より、2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症(BSE)検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表。
136	BSE	ProMed、2005年6月6日	国際的なBSE症例更新情報:農林水産省は、2005年6月初旬に採取された検体を解析した結果、北海道鹿追町で飼育されていた4才9ヵ月令のウシがBSEに感染していたと結論したとしている。

番号	感染症	出典	概要
137	BSE	ProMed、2005年7月1日	米国農務省(USDA)はBSE発症ウシ生産元がテキサス州南東部であると公表。狂牛病検査陽性となったウシはテキサス州南東部が生産元であると、このウシの配送を担当したペットフード会社所有者が2005年6月30日公表した。
138	BSE	SCIEH Weekly Report, Vol.38 (2004/50) 304 (2004)	2004年12月1日、スコットランド大臣は高令のウシに関しフードチェーンへの入り込みの自動的な禁止を解除し、かわりに正確なBSE検査レジメンに置き換える考えを発表した。
139	BSE	USDA Newsroom Release No0007.05	動植物衛生検査局獣医部責任者Dr. Ron DeHavenの、米国での最初のBSE感染症例が、今回のウシと同じアルバータ州産集団由来であったことなどの声明。) )
140	BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
141	BSE	AFSSA/2004年10月28日	EUのサーベイランス調査プログラムで特定された伝達性亜急性海綿状脳症(TSE)例の株の仏国内タイピングネットワークによって、2002年にと畜されたヤギにおいて、調査の現段階でウシ海綿状脳症(BSE)株と同じような特徴を有する感染性病原体が、存在することが指摘された。
142	BSE	Associated Press 2004年11月18日	米国で2例目となるBSE(ウシ海綿状脳症)症例が確認される可能性が出ているが、農務省当局は2004年11月18日、問題のウシは食物連鎖(食糧・飼料)からは除外されていると発表した。
143	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。
144	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
145	BSE	European Commission Press Release 2005年1月28日	2002年にフランスで屠殺されたヤギのBSE疑い事例は、ヨーロッパの科学者会議において本日、BSEと確定された。ECはこれが孤発例であるものかどうかを決定するために検査を行うように提案した。自然界のヤギにおいて最初に見つかったBSEであるが、EUではこのような事態から消費者を保護するための措置を数年間にわたり適用している。ヤギのTSE感染レベルは極端に低く、消費者へのリスクはほとんどない。
146	BSE	J of Compalative Pathology 2004;132/1,59-69	実験的にBSE感染させたヒツジでは、症状発現前の段階で採取した扁桃腺生検サンプルにPrPscが検出される可能性を示唆した。
147	BSE	J of General Virology 2004;85:2471-8	BSEプリオンを異なる系統の近交系マウスに接種すると2種類のPrPse型が増殖し2種類のプリオン株が分離されている可能性が示唆された。
148	BSE	J of General Virology 2004;85:3159-63	BSE感染ウシの脳を経口摂取したヒツジから子羊が母子感染する頻度は、臨床的にBSE感染したヒツジが母子感染する頻度より低い結果となることが示唆された。しかし母子感染を完全に否定はできない。
149	BSE	ProMed20050103-0020(カナダ食品検査局)	疑い動物でBSE感染の診断確定、調査が進行中。カナダ食品検査局(CFIA)は本日[2004年1月2日]、アルバータ州の高齢の乳牛が検査で牛海綿状脳症(BSE)陽性となったことを確認した。感染が確認された個体は、1997年の飼料規制導入以前の1996年に誕生した。BSE確定症例のいかなる部分も、ヒトおよび動物飼料の食物連鎖環に入っていない。
150	BSE	ProMed20050109-0020(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
151	BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
152	BSE	STATEMENT by USDA	2005年6月29日、米国農務省(USDA)より先週、BSE陽性と判定された牛の群を特定したと発表した。